

出雲市立乙立小学校 心に残る文化財子ども塾

6月1日(金)には、出雲市立乙立小学校に伺いました。6年生5名、5年生1名のみなさんです。5校時は6年生のみで和同開珎作りを行い、6校時には両学年で実物大の大仏パネルを組み立てました。和同開珎作りは、ナベで溶かした合金をシリコン製の鋳型に流し込み、銀色に輝く和同開珎を作り出す体験。大仏パネルは、1辺1m 四方のシート188枚を台座の部分から上へ上へと積み上げ、総高18mの立派な大仏さまを完成させるもの。学校のふだんの授業ではなかなかできないこういう体験活動を通して、歴史や文化、文化財に興味を持ってけると嬉しいです。



▲ 大仏パネルの部品は 188 枚もあって大変。 ▲ ステージに立って大仏の大きさを実感。



▲ 完成後、好きな所に座って記念撮影です。 ▲ 大仏開眼供養会の再現も試みました。

【学習後の感想】

○心に残ったのは、和同開珎づくり。とくしゆな金ぞくをとかす時にかたまっていたのが、いきなりとけてびっくりしたからです。きれいな形になって感動しました。

○昔のお金をつくるのは初めてだったし、昔は少しだけ今の漢字とちがうことや、和同開珎や貝以外にもお金があったことを知ってびっくりしたからです。

○大仏パネルでみんなと協力して楽しくできたことです。

○たったの6人で大仏パネルを短時間で完成させることができ、達成感がありました。子ども達により歴史に興味を持ったようです。

出雲市立乙立小学校6年生・5年生の皆さん、先生方、ありがとうございました！